

3，15，0

（包紙表）

「延享元年酉八月廿二日御在国

殿様年頭之御目見御聞届

被仰付旨被仰渡之節書付三通」

（包紙裏）

「進上

裏絹」

3，15，1

（端裏書）

「大谷九右衛門殿 牛尾金右衛門

上村惣右衛門

延享元年八月廿二日殿様御在国之節御目見御聞届被

仰付候節、則御書付を以被仰付候節大和守様御館

九右衛門御呼出御召状之写」

御用之儀有之候間

唯今

御館^江可罷出候、以上

八月廿二日

3，15，2

（端裏書）

「大廣院様御代延享元年子八月廿一日

祖父九右衛門勝房殿様御在国之節

年頭御目見於鳥府御願申上候處

御聞届被仰付旨則大和様於御館

被仰渡御書付写也」

其方儀御在国之

節年頭

御目見願之通被

仰付候

子八月廿二日

3，15，3

（端裏書）

「大谷九右衛門殿

牛尾金衛門

上村惣右衛門

延享元年酉八月廿二日御狀其翌九日旅宿

到来日限違^ニ付御添書之写」

追^而申入候、此紙面

昨晚可遣之处、夜^ニ入

候之故今日遣候、何分

早御屋敷可被出候

以上

八月廿三日